

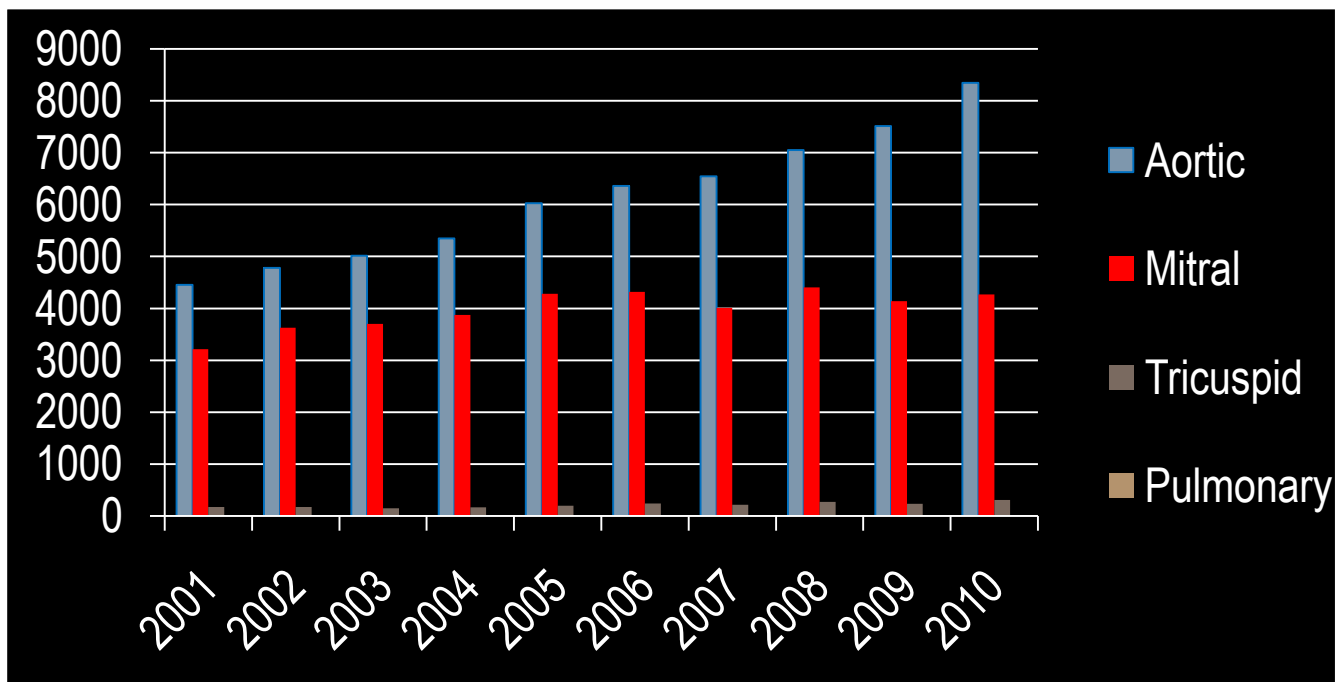
心臓手術の低侵襲治療

小切開手術について

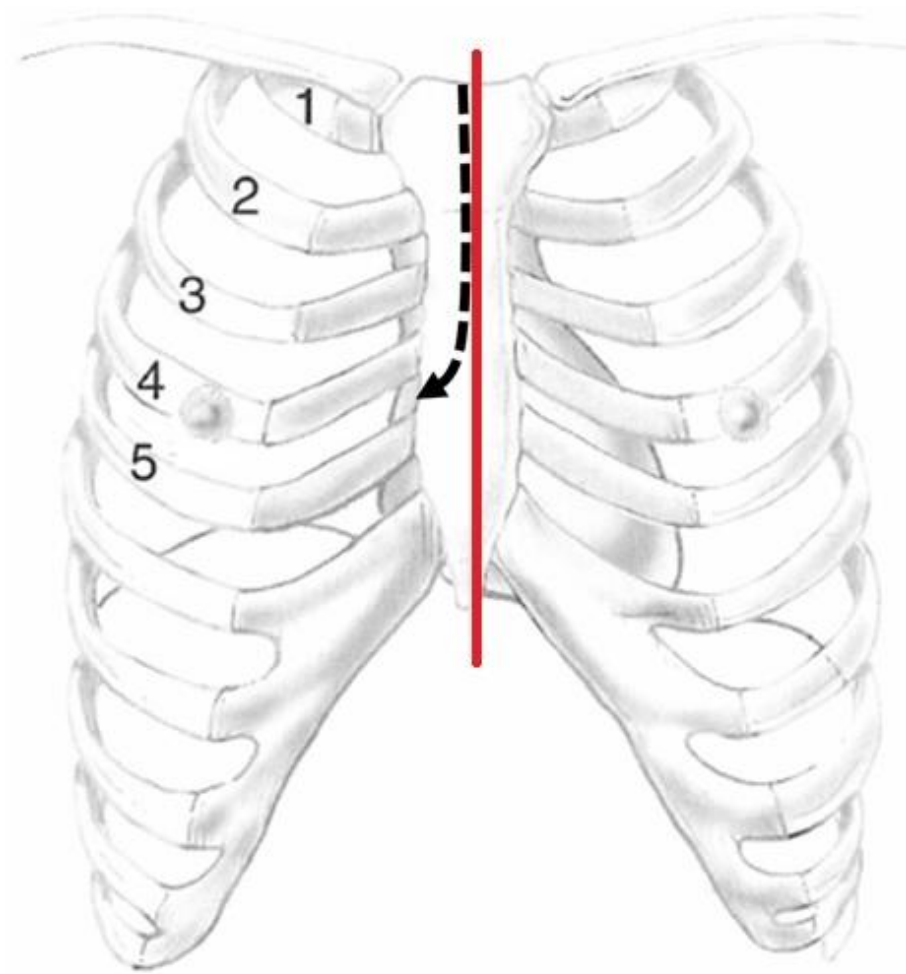
2012年6月の新病院開院に伴い心臓血管外科の手術を開始いたしました。

現在日本では高齢化社会の進行に伴い、高齢者の心臓疾患が増加しております。特に大動脈疾患（グラフの青）は著明な増加を認めております。高齢者に手術を施行するという事はそれだけ体にかかる侵襲を軽減する必要があります。

そこで当科では開設以降、患者様が手術に伴う侵襲をできる限り少なくするため、小切開手術に取り組んでおります。



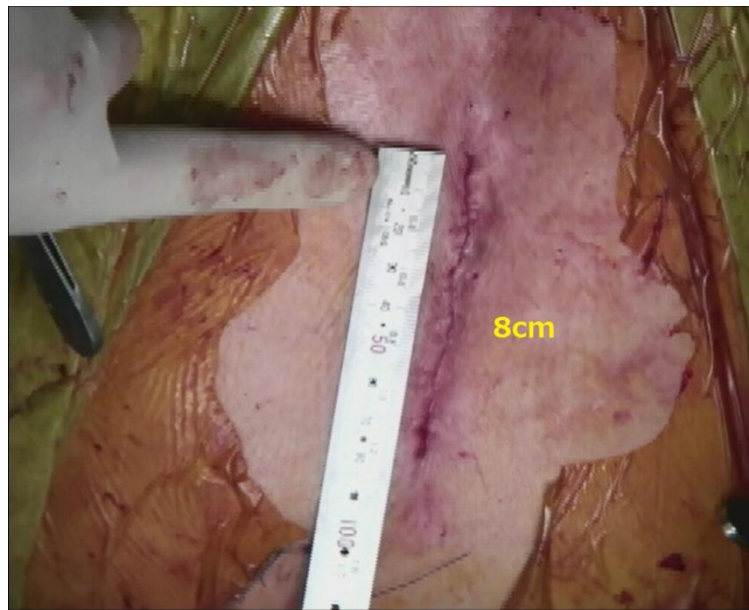
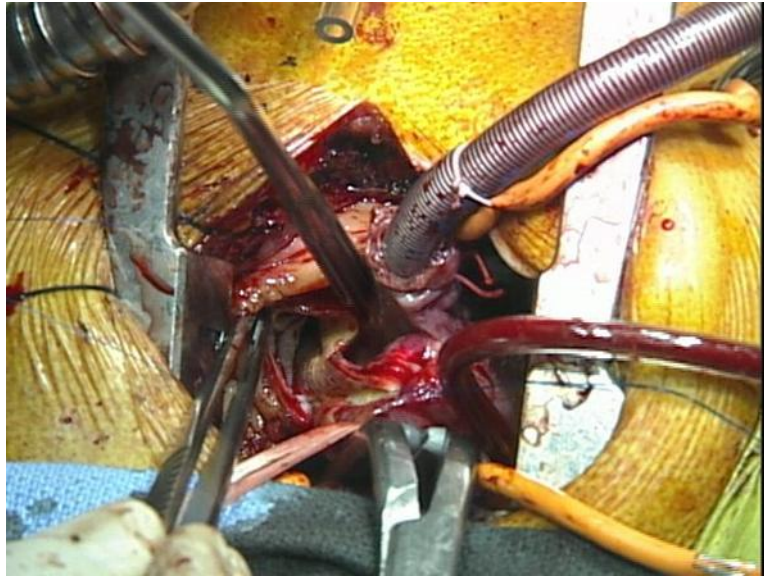
例えば、前述の大動脈疾患の場合、従来は胸の正中を真直ぐ切開し（赤線）手術を施行しておりました。私たちは点線にあるように切開創をできる限り少なくし手術を行っております。それにより疼痛の軽減、輸血の回避、術後社会生活への早期復帰、美容の面でも患者様の負担を減らすことができると考えております。手術創部は約 8cm 程度であり従来の半分以下の大きさです。



国内での小切開心臓手術施行率は低く、熟練の手術技術があって初めて施行できる手術方法です。

もちろん、手術は安全かつ正確に行うことが最重要です。そのため小切開手術と従来の手術方法を患者様の背景に応じ、手術に取り組んでまいります。

小切開手術についてお聞きになりたい方は当院心臓血管外科初診外来までお越し下さい。



実際の手術の写真：創部が小さいことがお分かり頂けると思います。